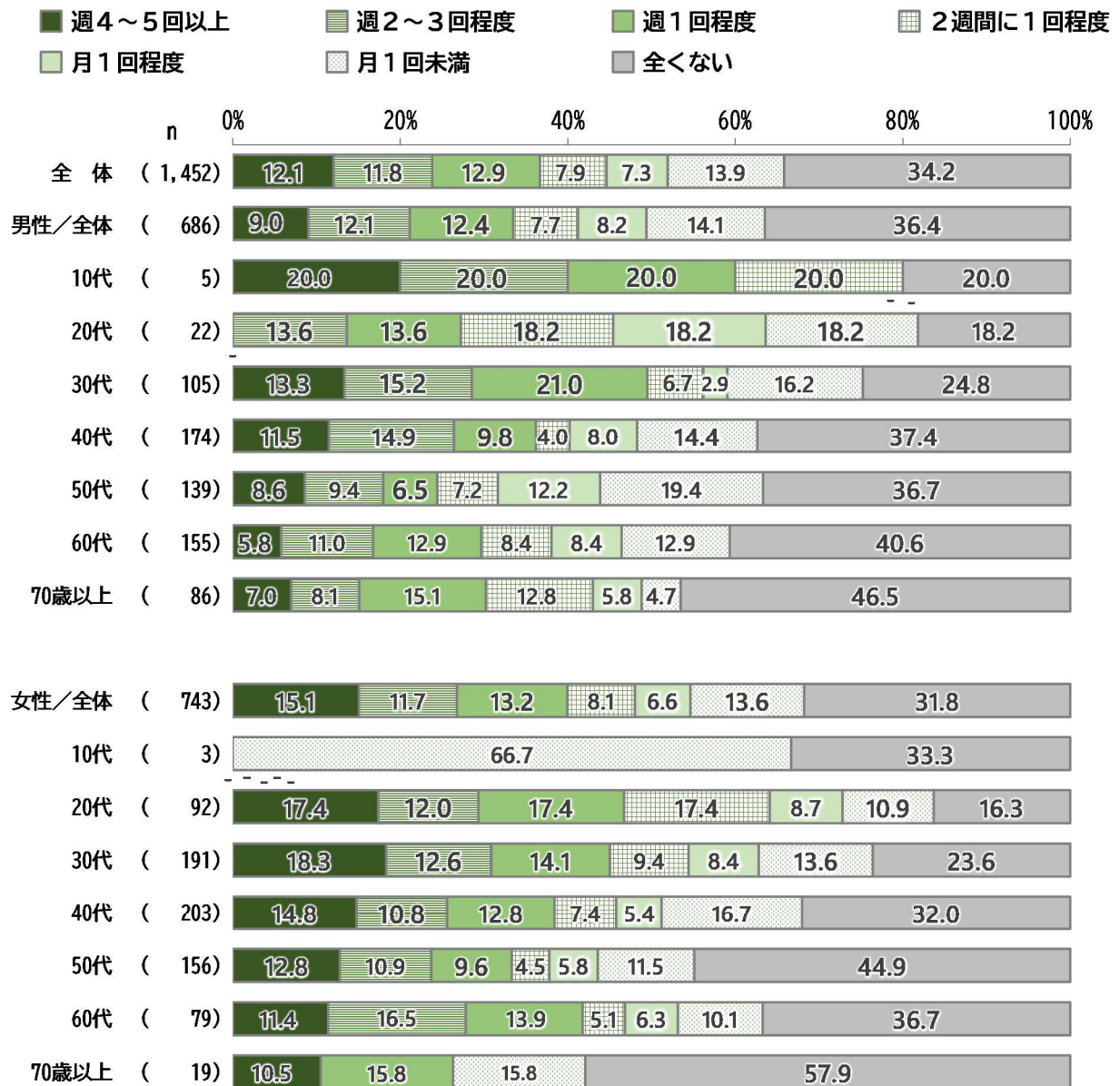
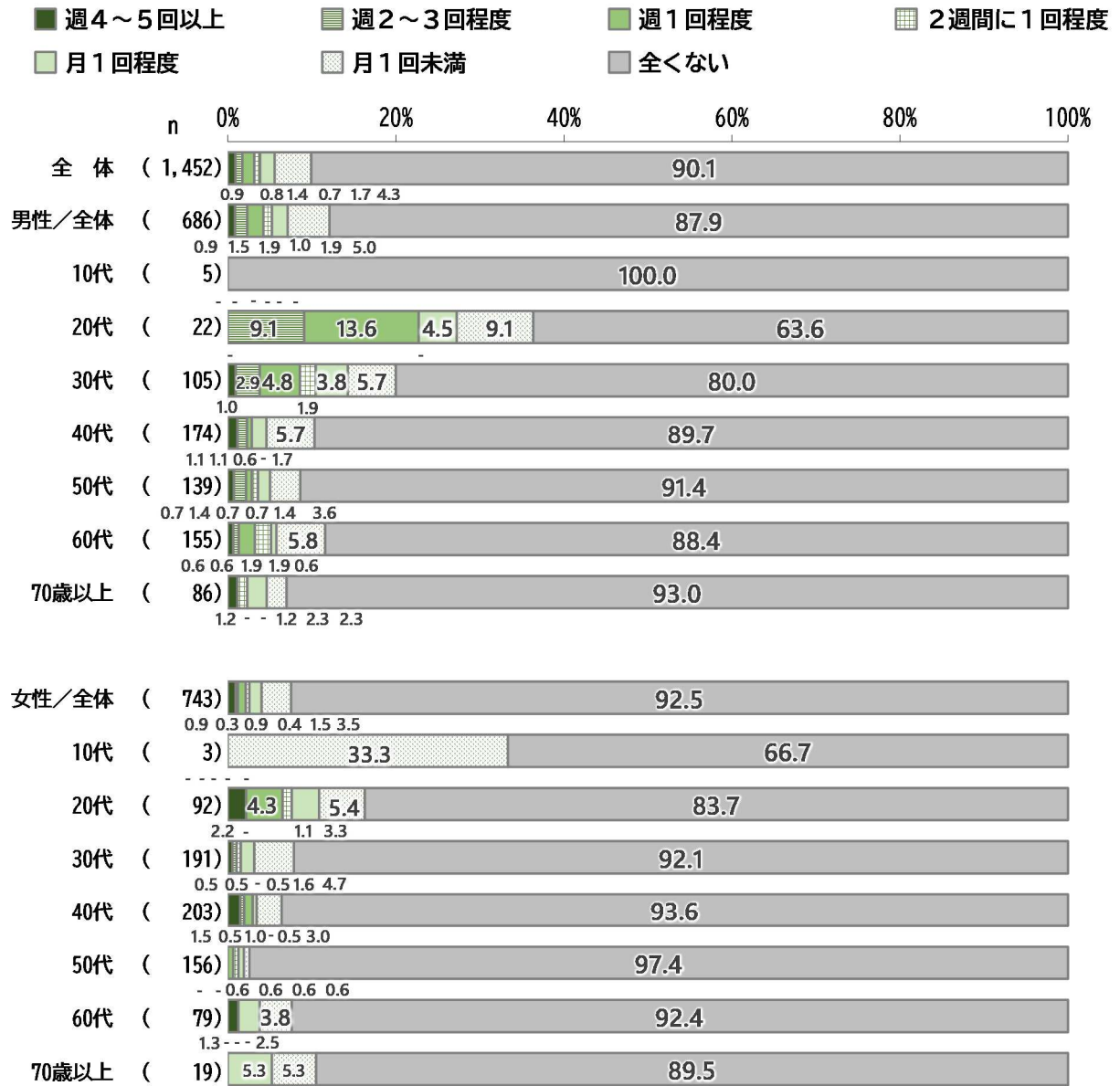


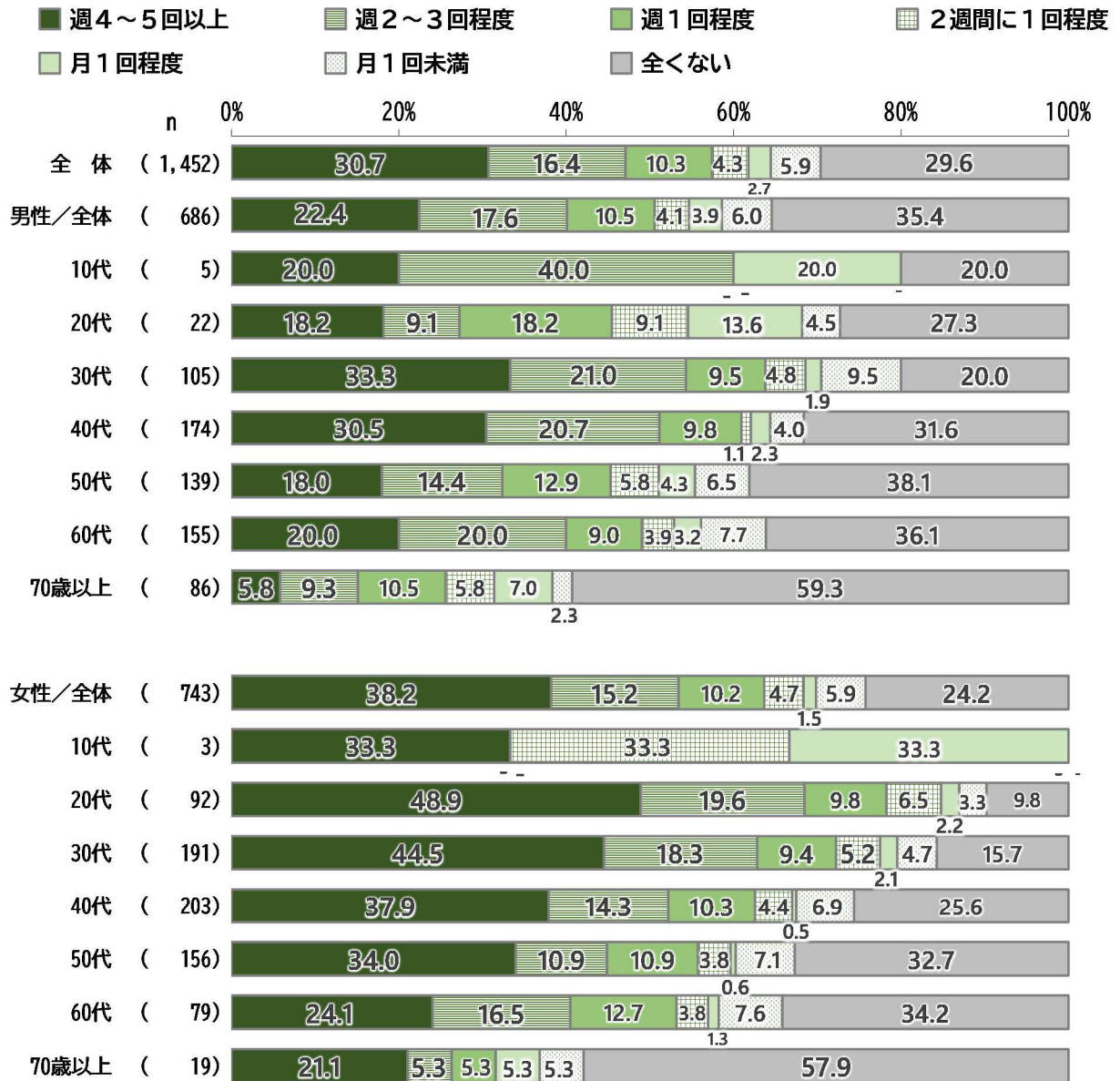
【図2-7】男女、年齢階級別「電話（ビデオ通話含む）する」頻度



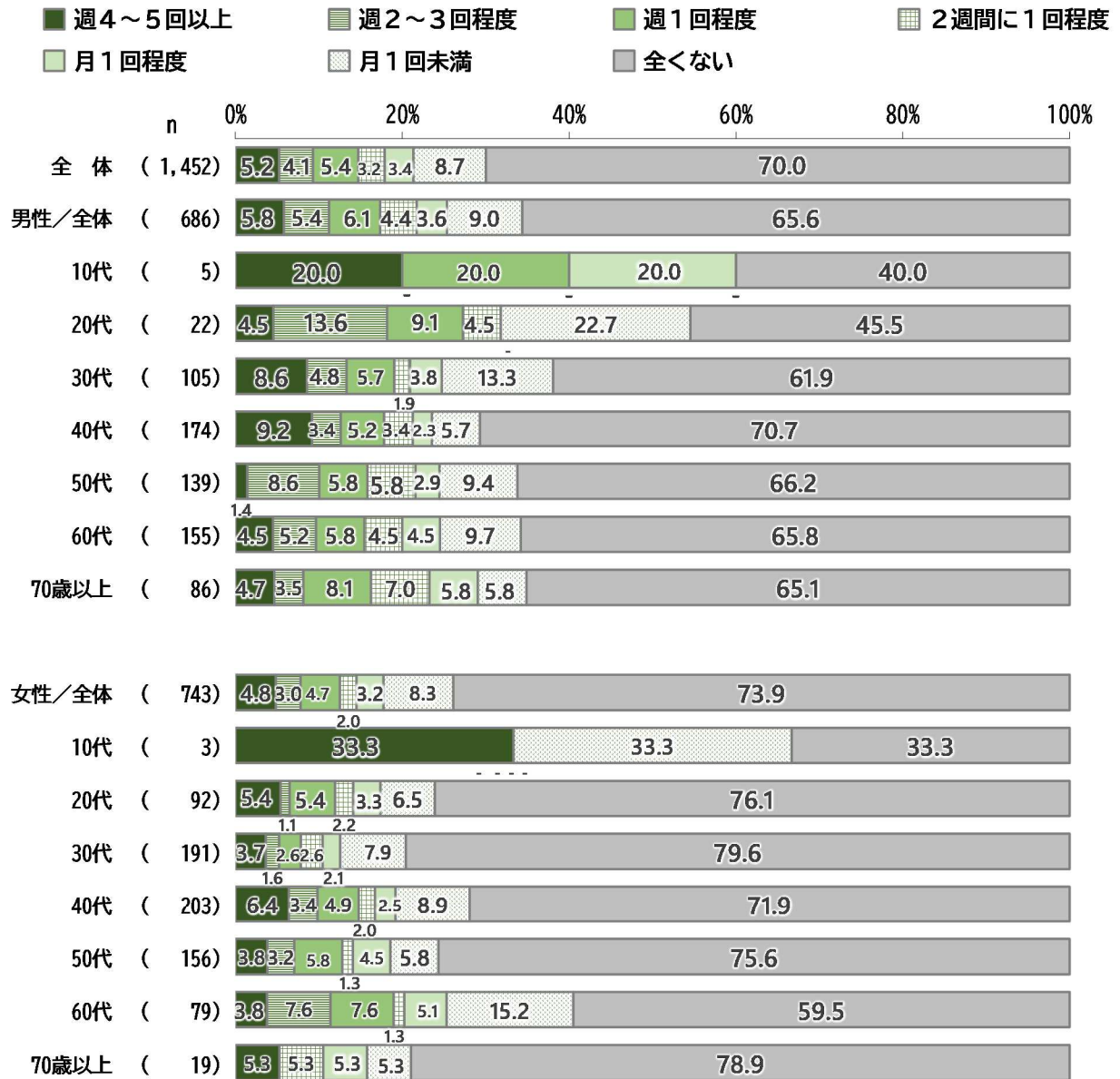
【図2-8】男女、年齢階級別「郵便やFAXする」頻度



【図2-9】男女、年齢階級別「SNS（LINE等）をする」頻度



【図2-10】男女、年齢階級別「電子メールやショートメールをする」頻度



(4) 男女、年齢階級別社会参加の状況（社会参加）

「図2-11」は、男女、年齢階級別に社会参加（人と交流する活動に限る。）の状況を示している。全体では、特に参加はしていない人が52.9%で最も多く、次いでPTA・自治会・町内会などの活動に参加している人が28.6%となっている。特に参加はしていない人の割合は、20代男性が最も高く77.4%となっている。一方、その割合が最も低いのは、70歳以上の男性で32.3%となっている。

【図2-11】男女、年齢階級別社会参加の状況【複数回答】

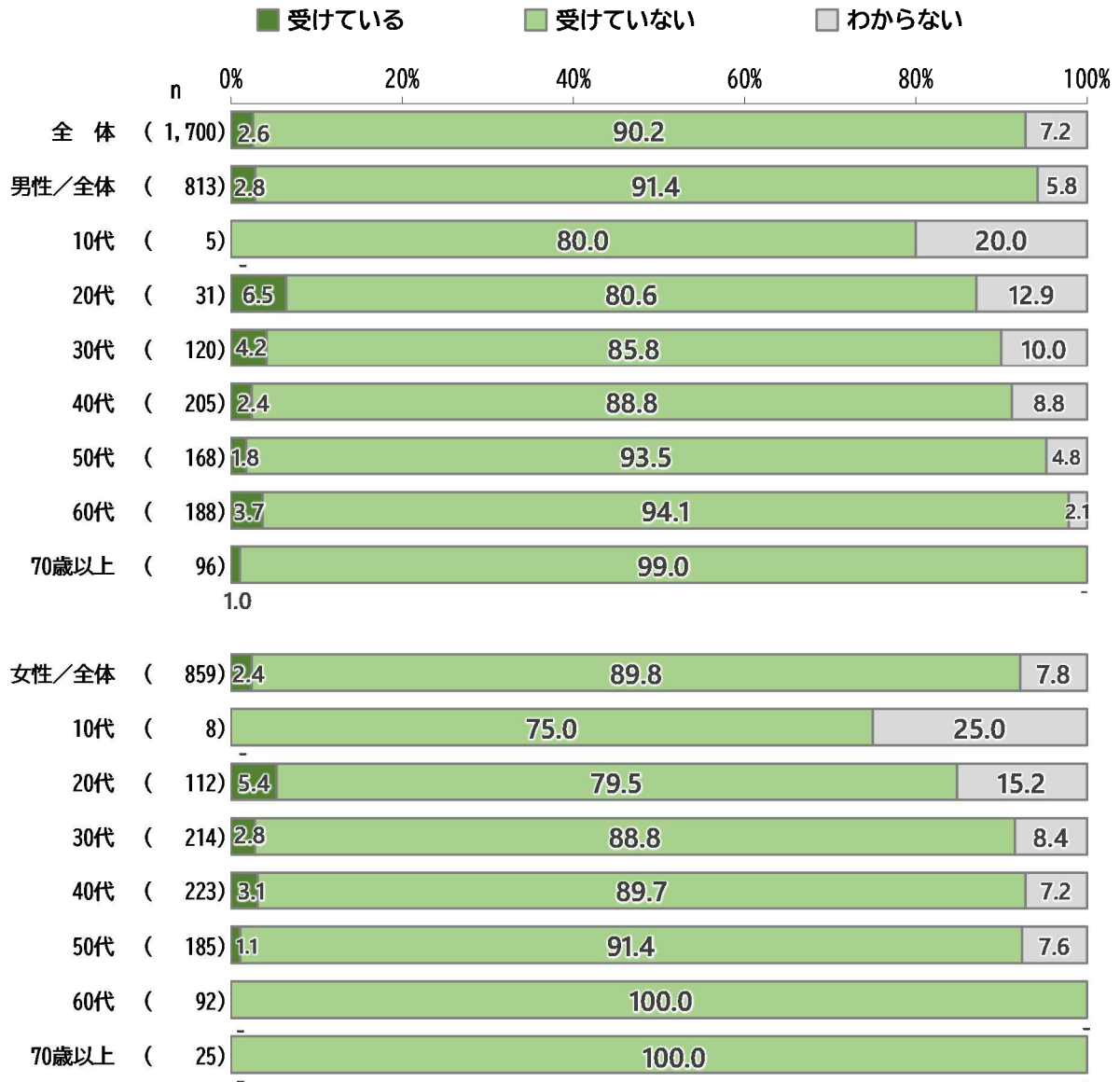
	n	動 P T A ・自治会 ・町内会 などの活	む 己 啓発 などの活 動（部 活動 等含	ス ポ ー ツ ・趣味 ・娯 楽・教 養・自	上 記 以 外 のボ ラン テ ィ ア活 動	や そ の 他 の活 動（同 窓会 活動・宗 教	家 族 以 外 の障 が い な い 人 の 手 助 け を す る 活 動	特 に 参 加 は し て い な い
全 体	1,700	28.6	24.6	4.9	4.3	4.0	52.9	
男性／全体	813	32.8	29.0	6.6	5.4	3.6	47.1	
10代	5	20.0	40.0	20.0	0.0	0.0	60.0	
20代	31	6.5	9.7	9.7	3.2	9.7	77.4	
30代	120	20.0	28.3	5.8	4.2	5.0	57.5	
40代	205	29.8	31.7	4.9	1.5	2.9	52.2	
50代	168	37.5	25.0	7.1	6.5	2.4	45.2	
60代	188	39.4	28.7	8.0	5.9	3.7	38.8	
70歳以上	96	43.8	37.5	6.3	13.5	3.1	32.3	
女性／全体	859	24.8	20.7	3.3	3.3	4.5	58.0	
10代	8	12.5	37.5	0.0	0.0	0.0	62.5	
20代	112	6.3	17.0	4.5	0.9	5.4	75.9	
30代	214	21.0	14.5	1.9	2.3	1.4	65.9	
40代	223	35.4	20.2	0.9	2.7	5.4	50.2	
50代	185	22.2	22.7	7.0	4.9	5.4	55.7	
60代	92	30.4	30.4	2.2	6.5	6.5	44.6	
70歳以上	25	48.0	40.0	8.0	4.0	8.0	44.0	

※nが25人未満の層は、人数が少ないので参考として図示し、文中では触れていない。

(5) 男女、年齢階級別各種支援の受領状況（社会的サポート（他者からの支援））

「図2-12」は、男女、年齢階級別に各種支援の受領状況を示している。支援を受けている人の割合は、全体では2.6%で、男性で2.8%、女性で2.4%となっている。

【図2-12】男女、年齢階級別各種支援の受領状況

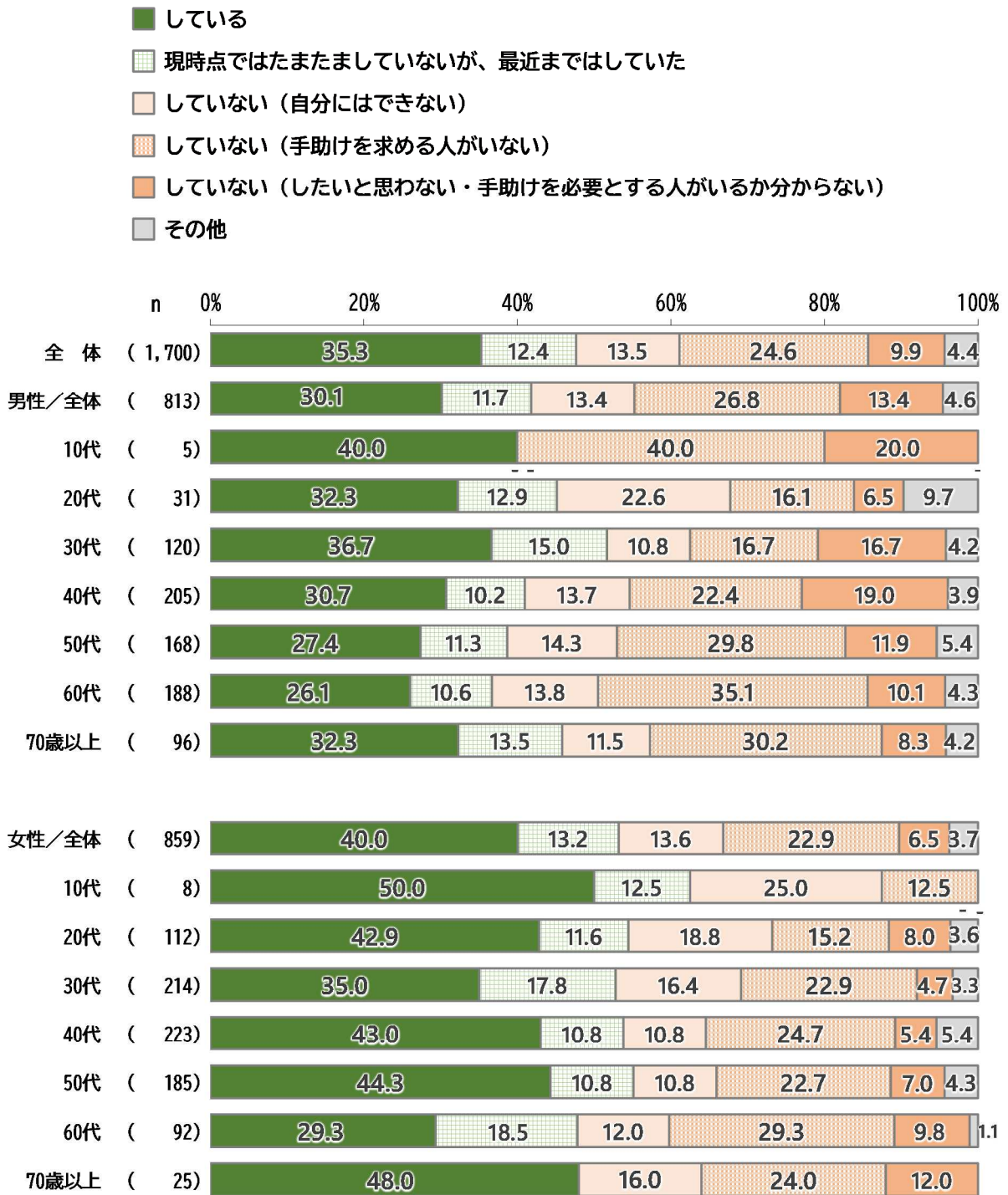


※nが25人未満の層は、人数が少ないので参考として図示し、文中では触れていない。

(6) 男女、年齢階級別他者への手助け状況（社会的サポート（他者への手助け））

「図2-13」は、男女、年齢階級別に他者への手助けの状況（まわりで困っている人がいたら、積極的に声掛けや手助けをしているか）を示している。他者への手助けをしている人は、全体では35.3%で、男性では30代が36.7%と最も高く、女性では70歳以上で48.0%と最も高くなっている。

【図2-13】男女、年齢階級別他者への手助け状況



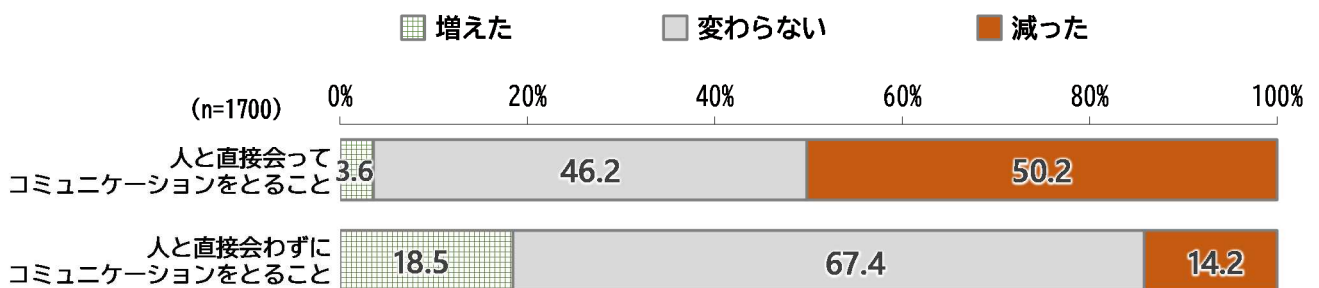
※nが25人未満の層は、人数が少ないので参考として図示し、文中では触れていない。

3 新型コロナウイルス感染拡大の影響

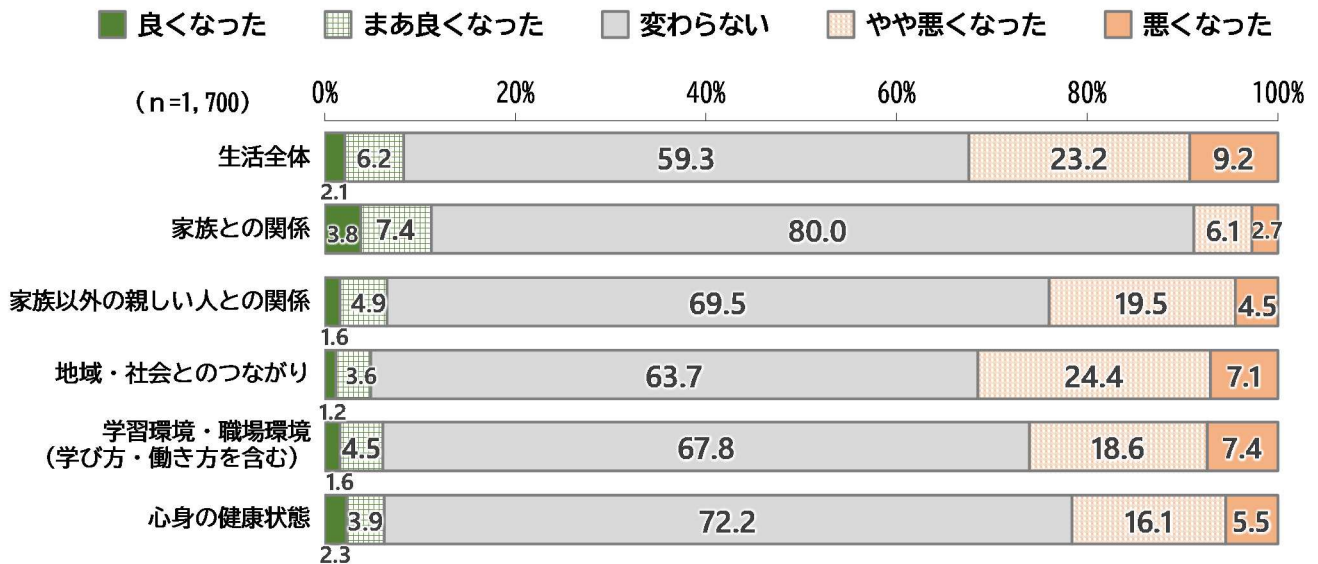
本調査では、新型コロナウイルス感染拡大により、人とのコミュニケーションにどのような変化があったか、また、日常生活にどのような変化があったかを把握した。

人と直接会ってコミュニケーションをとることが減ったと回答した人の割合は、50.2%であった（図3-1）。また、日常生活の変化について、生活全体では59.3%の人が変わらないと回答している（図3-2）。

【図3-1】 コロナ禍におけるコミュニケーションの変化



【図3-2】 コロナ禍における日常生活の変化



4 孤独・孤立状態にある方の支援に向けて

(1) 孤独・孤立状態にある方への支援で必要なこと

孤独・孤立状態にある方への支援で必要なことを自由に記入していただいたところ、「特になし」、「わからない」、「支援の必要なし」と記入した542人を除き、1,158人から延べ1,229件の貴重な回答が寄せられた。

ここでは、原文の内容の趣旨を損なわないよう記入内容を分類し、整理した。

内容	件数
声をかける、見守る、寄り添う、話し相手になるなど	409
気軽に集まれる居場所やコミュニティづくり	113
相談支援や相談窓口・機関（電話相談、ネット・SNS相談を含む）の充実	107
地域や民間の力による支援	90
訪問によるアプローチ	76
経済的な支援	68
国や自治体による支援	67
支援に関する情報の提供やPR	41
本人やその家族の状況を把握する。その上で必要な支援につなげる	34
インターネットやSNS等の情報機器を活用したつながりづくり	24
外部とかかわれる機会づくり	20
声を吸い上げる、声を上げやすい環境をつくる	20
心のケアを受けられるようにする	19
仕事・就業等の支援	17
そっとしておくべき、必要以上に干渉しない	17
家事・育児・介護等の生活支援	13
家族等の支援	10
支援するのは難しい	10
自分で何とかするしかない	9
同じような状況の人と集える場づくり	9
友人とのつながり	8
その他の意見	48
合計	1,229

(2) 孤独・孤立を感じている内容

全体では、「孤立・孤独を感じていない」が52.5%で最も多く、次いで「孤独を感じてはいるが、しがらみもないのでその方が望ましいと思う」が17.8%、「人間関係がうまく構築できない」が17.2%となっている。年齢階級別にみると、男女ともにいずれの年齢階級でも「孤立・孤独を感じていない」が多くなっている。孤独・孤立を感じている内容の中では、「人間関係がうまく構築できない」は女性の20代で27.7%、女性の30代で29.0%と高くなっている。

【図4-1】男女、年齢階級別孤独・孤立を感じている内容【複数回答】

	n	孤立・孤独を感じていない	孤独を感じてはいるが、しがらみもないのでその方が望ましいと思う	人間関係がうまく構築できない	病気・怪我による心身の不調	身近に相談できる人、相談先がわからない、場所がない又は	家庭や地域で居場所がない	その他
全体	1,700	52.5	17.8	17.2	12.4	11.9	6.4	3.0
男性/全体	813	55.4	18.0	14.1	11.7	11.4	5.5	2.8
10代	5	80.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20代	31	51.6	12.9	19.4	12.9	19.4	19.4	3.2
30代	120	47.5	20.0	19.2	10.8	13.3	10.0	4.2
40代	205	46.8	18.5	20.5	14.6	13.7	7.8	2.4
50代	168	56.0	17.9	13.7	14.3	12.5	3.6	3.0
60代	188	59.6	20.2	9.0	8.0	9.0	2.1	2.1
70歳以上	96	74.0	12.5	3.1	9.4	5.2	1.0	3.1
女性/全体	859	49.8	17.5	19.8	13.3	12.7	7.0	3.3
10代	8	37.5	12.5	37.5	0.0	25.0	0.0	0.0
20代	112	42.9	15.2	27.7	19.6	19.6	12.5	1.8
30代	214	41.1	20.6	29.0	14.0	11.7	8.4	4.7
40代	223	49.3	15.7	19.7	11.7	14.8	7.2	2.2
50代	185	55.7	19.5	11.9	9.2	12.4	3.8	4.9
60代	92	62.0	14.1	7.6	18.5	4.3	4.3	2.2
70歳以上	25	76.0	16.0	4.0	8.0	0.0	4.0	0.0

※nが25人未満の層は、人数が少ないので参考として図示し、文中では触れていない。

(3) 孤独・孤立の状態が解消したきっかけ

全体では、「孤立・孤独を感じたことがない」が40.9%で最も多く、次いで「時間が経過することで、自分の気持ちに変化が生じた」が25.1%、「相談や話ができる相手との新たな出会いがあった」が17.6%となっている。年齢階級別にみると、「時間が経過することで、自分の気持ちに変化が生じた」は女性の30代で35.7%、女性の50代で31.4%、「相談や話ができる相手との新たな出会いがあった」は男性の20代で29.0%と高くなっている。また、「孤独・孤立を感じたことがあるが、現在もそれが解消していない」は女性の40代で22.2%となっている。

【図4-2】男女、年齢階級別孤独・孤立の状態が解消したきっかけ【複数回答】

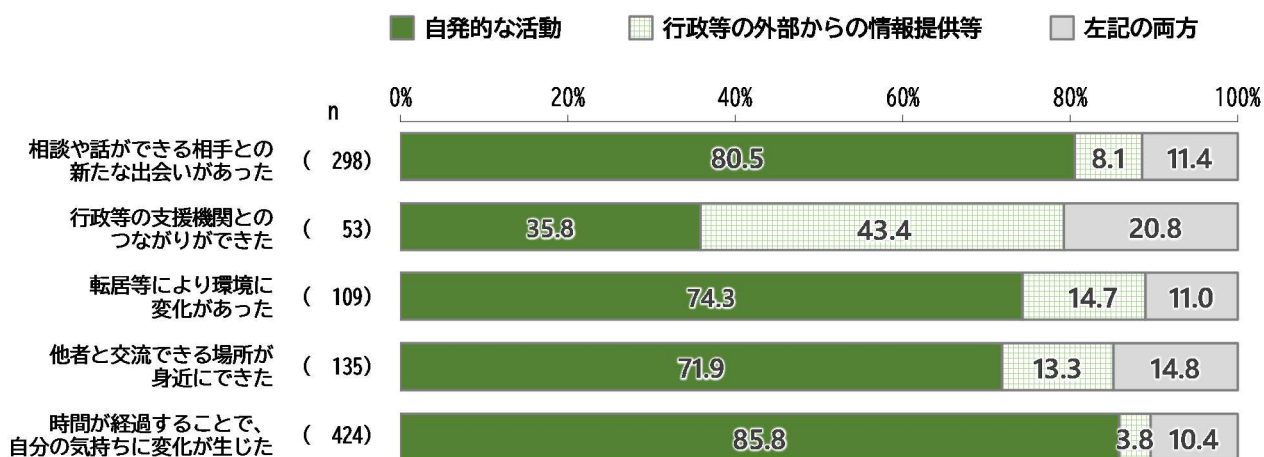
	n	孤立・孤独を感じたことがない	時間が経過することで、自分の気持ちに変化が生じた	相談や話ができる相手との新たな出会いがあった	他者と交流できる場所が身近にできた	転居等により環境に変化があった	行政等の支援機関とのつながりができた	在孤もそれが解消していかないがあるが、現在もそれが解消していない
全体	1,691	40.9	25.1	17.6	8.0	6.4	3.1	15.8
男性/全体	808	46.7	20.0	15.6	8.0	5.6	3.3	15.1
10代	5	60.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0
20代	31	35.5	6.5	29.0	16.1	9.7	6.5	16.1
30代	119	36.1	24.4	18.5	13.4	7.6	6.7	12.6
40代	203	40.4	20.7	17.2	8.9	5.4	2.5	18.7
50代	166	43.4	20.5	17.5	6.0	5.4	3.6	18.1
60代	188	53.7	22.3	12.2	5.9	4.8	2.7	12.2
70歳以上	96	67.7	12.5	8.3	4.2	4.2	1.0	11.5
女性/全体	855	35.6	30.1	19.4	7.8	7.4	3.0	16.4
10代	8	37.5	12.5	37.5	0.0	0.0	0.0	12.5
20代	112	30.4	25.9	21.4	16.1	11.6	4.5	15.2
30代	213	24.9	35.7	24.4	9.4	9.9	4.7	16.9
40代	221	32.6	29.0	17.6	7.2	9.0	1.8	22.2
50代	185	38.9	31.4	17.8	5.4	4.9	2.7	15.7
60代	91	58.2	28.6	12.1	1.1	0.0	0.0	6.6
70歳以上	25	68.0	12.0	16.0	8.0	0.0	8.0	8.0

※nが25人未満の層は、人数が少ないので参考として図示し、文中では触れていない。

(4) 孤独・孤立の状態が解消したきっかけにつながった経緯

孤独・孤立の状態が解消したきっかけにつながった経緯は、概して、「自発的な活動」であることが多くなっているが、「行政等の外部からの情報提供等」により、「行政等の支援機関とのつながりができた」が43.4%となっている。

【図4-2】孤独・孤立の状態が解消したきっかけにつながった経緯



○調査結果に関する問合せ先

鳥取県福祉保健部 ささえあい福祉局福祉保健課

〒680-8570 鳥取県鳥取市東町 1-220

電話 : 0857-26-7859